

## ⑩相生つ子学び塾事業

児童の安全な放課後の居場所づくり、自学自習力と基礎学力の向上を目的に、地域の人々や教員OBの協力のもと学び塾を実施。

## ⑪ワンピース・イングリッシュ事業

幼児期から中学校卒業まで、段階に応じた英語教育のため、総合的なプログラムを実施。



宣言した当初は、「なぜ子育て世代だけ」「財政面が心配だ。いつまで続くのか」といった強い反対もありましたが、市長自ら市民に説明し理解を得てきました。その結果、給食費の無料化については、

「経済的に助かっている」、「子どもが好き嫌いがなくなった」、転入者からは「子育てするのに住みやすい」などの声がありました。「子育て応援都市、相生市」が広く認知され、さらなる子育て世代定住者の増加を目標に取り組んでいます。

### ◎委員考察

視察後の委員からは、「結婚から子育て、教育に至るまで、切れ間ないサポートによる、若者が生活しやすい地域を作る取り組みは、本市も見習うべき点がある」とや「応援都市宣言のような移住定住に向けた方向性（目標）を明確に分かりやすく打ち出す必要がある」、「市民が必要とする施策は、給食費の無償化や進学に対しての恒久的な財政的支援である。交付金ではない運用のため、財政の見直しが重要である。」などの意見がありました。

日時 10月16日(水)

午前9時30分より

視察地 岡山県和気町

視察テーマ

「移住・定住促進の取り組み及び起業・創業支援の取り組みについて」

和気町では人口減少に歯止めをかけるために、平成27年度に和気町まちひとしごと創生総合戦略を策定し、移住専門のHP「ワケスム」を開設しました。翌年には移住専門相談窓口を設置、直近8年間で3080人の新規移住相談、765人の移住者がありました。令和6年度からは、相談員を男女2人体制とし、移住者と地元出身者、東京または大阪の生活経験者といった視点で、移住希望者それぞれにバランスをとった相談を行っています。



相談対応では、8年の経験を通じて、具体的なメリット・デメリットを、しっかりと伝えるようにしていました。

また、創業支援においてはこれまで和気商工会が主体で行っていましたが、相談者や創業塾の参加者が少なく、平成28年度から事業充実のため、行政が主体となり、備前市、瀬戸内市、和気町の2市1町合同で創業支援事業を行っています。創業塾においては商工会が9月、行政が11月で行っており、年間を通じた事業展開の環境づくり、支援体制ができていました。年々、申込者も増加しているとのこと。

### ◎委員考察

視察後の委員からは、「現実をさらけ出しながら、時間をかけて移住者受け入れを進めることが重要である」とや「県や商工会議所、金融機関等との連携を強化し、地域産業の事業承継及び新規参入の促進に向けた取り組みと専用窓口創設など、相談者の受け入れ体制の充実を計るべき」、「本市の魚の新鮮さやおいしさ、豊かな自然はどこにも負けないものがある。もう一工夫のアピールが足りていない。年齢を問わずインターン・Uター

ンと言った移住者、外の世界を見てきた人たちとの意見交換も必要ではないか」などの意見がありました。



\*詳しい報告内容は、紙面の都合で割愛させていただきました。なお、宿毛市議会ホームページに報告書全文を掲載しておりますのでご覧下さい。

